

As of 2023/05/16 21:15

2023/05/17（水曜）の西山和子「オンライン会議」に臨んで

医師から、現時点の病状を説明願いたい。

精神科医からは：

内科医からは：

大坪医師は、和子の保護者から紀男を外す、と通告してきたが、
医師にそのような権利があるのか？

IVH 医療について、

厚労省のガイドラインの趣旨をどのように運用するのか？

辻恭子の意見は？

医療チームは 本人にとって最善の利益は何と決めているのか？

家族の意見をどのように考えるのか？

患者第一なのか？ 患者の家族は第何なのか？

辻恭子の本心はどうか、5月2日から5月8日の豹変は何故か？

5月2日の 谷弁護士からの返信では、簡素な葬儀を望んでいたではないか？
聞きたい。

私から、入院の経緯を話します。

** 和子は、父親からの暴力と虐待から逃れるために病院に入れた、
とキミエ母から聞いている。

** 弟の紘二も父親からの虐待から逃れるために榎葉病院に入院させた、
と母親から聞いている。

紘二の場合は、父から追い出され、長崎駅のベンチで寝ているところを、
2度も警察から補導された。

榎葉病院に長期入院し、2019年、榎葉病院で悲惨な死に方をしました。

西山家は、代々浄土真宗です。

50年以上も自由を奪われ、耐えてきた和子にとっては、延命治療は終身刑と
おなじです。 自然死を選んでやり、浄土に送ってやりたい。

そこは、大無量寿經に説いているように、春風のような穏やかなところで、自由に動き回れると説いてあります。

弟の紘二は横浜の長延寺の墓地に会葬しています。
月命日には、横浜の夫婦がお参りし、供養しています。
毎日、家族で「正信偈」を読んでお経を揚げています。

和子は、1970年に道ノ尾病院に入院して以来、50年以上の間、一度も家に帰ったことがない。母親が連れに来るのを50年余り待っていたことだろう。
不平も口に出せず、ただじっと我慢していた。

2020年9月の大坪医師の成年後見用診断書には、
「ジュースやお菓子の要求すらできない。」と記録されている。

2023年1月の加藤成年後見人の報告には、「日常生活動作も低下している。
食事は主菜みじん切り、全粥を1日3回、全量摂取しているが、体重44Kgから38Kgまで低下している、とのことであった。」と記録されている。

和子は、二重ロックが付けられた建物で、53年間も自由を奪われていた。
IVH治療を施して、これ以上延命するのは、終身刑と言わざるを得ない。

QOL（本人または家族の感じ方）：

身体的、精神的な健康状態（痛み、からだの動き、不安など）

1. 生命の質
2. 人生の質
3. 生活の質

CVC治療を受けたキミ卫母の様子：

2021年、104歳の時、CVCによる延命治療を受けた。

その後、眠っている時間が多い。

人の確認はできない。

CVC治療を施された後、キミ卫母は、QOLの改善は全く見られない。

近くの親戚、息子の嫁の父親の場合：

彼の母親は自然死を選んで、静かに葬儀を行い見送った。

彼の妻も自然死を選んで、静かに葬儀を行い見送った。
彼は、東京大学医学部に現役入学した人です。

聖路加病院の内科医で、生涯現役を通された 日野原重明さん、
2017年、105歳で自然死を選ばれた。

昭和天皇、エリザベス女王、共に自然死を選ばれた。

1979年、留太郎父が死去したあと、キミ卫母は5間もある広い家に一人で暮らしていた。
和子と一緒に静かに暮らすことも出来たであろうに。
しかし、恭子の子供が時々泊りに来るから、との理由で10畳の間を増築して
悠々と暮らしていた。

恭子の言っている「キミ卫母から和子の面倒をみるように託された。」は、虚言である。

2016年の年末、2017年正月に紀男一家（6名）で和子を訪ねたい、
今、和子は何処にいるのか？ 恭子に尋ねた。
その時、恭子は、今年は和子の誕生日の2月に行ったが、その後は会っていない、
とのことだった。

紀男は、5月2日から葬儀の準備に奔走していた。
平安社への葬儀手配、僧侶へのお布施、横浜・長延寺への法名のお願い、
弔辞の原稿、遺影用写真の選択・加工、等。

辻恭子の「和子との関わり」は、
この10年間で、どう関わって来たか、教えて欲しい。
2011年6月、大坪医師からの電話連絡で、「辻恭子の旦那が差し入れを
持ってきた。
和子は歯が無く、流動食以外は食べられないので、禁止してくれ。」

西山家：妹 和子と弟 紘二については、母キミ卫と父留太郎は一切を隠していた。
どのような状態なのか、
何時からどこにいるのか？ どこに入院しているのか？ 何も言わない。

紀男と美年子が結婚する前、横山家の両親に父留太郎は「和子と紘二には
別に3,000万円を取っている。」と大声で伝えて、口を封じた。

留太郎の兄 山崎一郎さんの妻（なを） から、和子と紘二は何処にいるのか？と横山の実家に電話の問い合わせがあった。
まして、横山の両親は、何も聞いていなかった。

2007年1月、辻恭子がキミ卫母を「かいごの花みずき」に入居させたときは、紀男には何の連なくも無く、独断で「保護者」として申告していた。
紀男には2か月後の事後報告だった。
キミ卫は、「恭子からこんな所に放り込まれた。」と不満を漏らした。

2022年8月、キミ卫の葬儀のかいごの花みずきの社長と電話確認したとき、社長は、「兄弟二人、と聞いていました。」と、

1965年10月、道ノ尾病院を受診。（診断書より引用）

1970年8月、道ノ尾病院に入院。（診断書より引用）

1979年、父 留太郎の死去のとき、
和子、紘二は、不動産を相続、
母 キミ卫は、不動産を相続、動産は紀男に隠して着服した。

2010年、左大腿骨骨折、百合野病院に転院（診断書より引用）
その後、道ノ尾病院で長期入院。

2017年1月、入院先の道ノ尾病院に和子を訪ねた。
辻恭子は同行を拒んだ。
和子は、妻 美年子と充分対話ができた。

2018年11月、キミ卫母の相続準備のため、辻恭子宅へ行ったとき、
簡保生命保険証のみ開示して、不動産、動産は開示しなかった。

2019年、紅葉病院に長期入院していた弟 紘二が死去した。
弟 紘二葬儀の翌日、花みずきにキミ卫母を訪ねたとき、
長男 紀男を認識できなかった。

2019年、キミ卫母に成年後見人が選任されてから
キミ卫母の資産の状態が判明した。
和子、紘二の不動産の賃料は、キミ卫と辻恭子から全額横領されていた。

辻恭子は、「和子と紘二は高級品を買っている。」
「和子と紘二が多額の浪費をした。」と後見人に虚偽報告をした。

2020年、妹 和子に成年後見人の選任を申請した。

2020年9月17日付、診断書（成年後見用）には、財産管理：後見相当、
見当識障害：高度、意思の疎通：できない、社会的手続き等：できない、
記憶障害：顕著、各種検査：理解力がなく実施不可

2021年1月7日、成年後見人に 弁護士 加藤 貴大 氏が選任された。

辻恭子が隠していた和子の預金通帳を成年後見人が取得した。

しかし、新規通帳への繰り越し前の通帳は渡さなかった。

後日、加藤成年後見人は銀行から過去の記録を取得した。

キミ卫母は、

2012年、95歳の時、ペースメーカーを装着。

紀男は事後報告を受けた。

2020年、キミ卫母、403歳で、ペースメーカーの電池交換。

以後、母は、度々の発熱、抗生剤の点滴により乗り越えている。

2021年、104歳の時、CVCによる延命治療。

花みずきの看護師からは、

その後、眠っている時間が多い。

人の確認はできない。